

# 健苗育成は収量・品質確保の第一歩！

- ☑ 健苗を適期に移植できるよう、**計画的な段播き**を実施
- ☑ コシヒカリ BL 種子は休眠が深いと推定、浸種・催芽は**適正水温**を守る

## 1 育苗準備

### (1) 播種計画

- ・健苗を適期に移植するため、田植日から逆算した播種計画を立てる。
- ・田植期間が長い場合は、播種日を複数回に分ける段播きを行い苗の老化を防止する。

表1 田植日から逆算した作業スケジュール（目安）

育苗様式		播種回数	浸種日※ <sup>1</sup>	播種日	田植日	育苗日数
稚苗加温	ハウス	1回目	4/4	4/15	5/10	25日
		2回目	4/20	4/30	5/20	20日
		3回目	5/4	5/12	5/30	18日
稚苗加温	露地プール※ <sup>2</sup>	1回目	4/1	4/12	5/10	28日
		2回目	4/15	4/25	5/20	25日
		3回目	5/2	5/10	5/30	20日

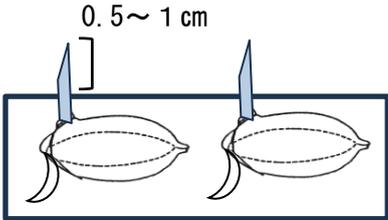
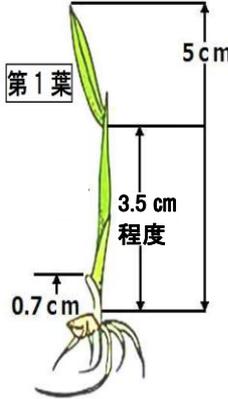
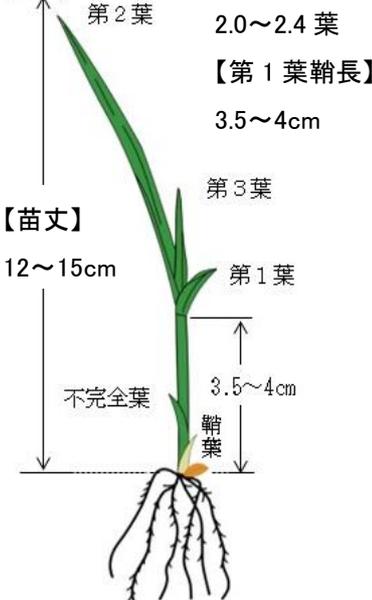
※1 浸種期間は早い時期ほど長く、遅い時期ほど短くなります。

※2 上記の日数はあくまでも目安です。実際の気候と苗を見て、育苗・田植え作業を行いましょう。

### (2) 種子消毒～播種

作業	ポイント	
塩水選 ↓ 種子消毒	<ul style="list-style-type: none"> <li>【塩水選】・種子を塩水に浸し、浮いた粃を取り除く（比重：うるち 1.13、もち 1.08）</li> <li>【薬剤消毒】・浸漬処理の場合、薬液の温度は <b>10℃未満にしない</b></li> <li>【温湯消毒】・湯温(60℃)と浸漬時間(10～15分)を正確に測定する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・防除効果の向上を図るため、<b>微生物農薬との体系処理</b>を行う</li> <li>・もち品種の温湯消毒は避ける（発芽率が低下しやすいため）</li> </ul> </li> </ul>	
浸種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>コシヒカリBL</b>：浸種水温 <b>12℃</b>、積算水温 <b>120℃</b>が目安</li> <li>・コシヒカリBL以外の品種：浸種水温 10～15℃、積算水温 100℃が目安</li> <li>・発芽揃いが悪くなるため、<b>浸種初期は絶対に10℃未満の低水温にしない</b></li> <li>・酸欠防止のため、浸種の水量は<b>種子容量の2倍</b>（種子粃 1kg に対して水約 3.5ℓ）以上</li> <li>・消毒効果を高めるため、前半4日間は水を更新しない → その後は1～2回更新（温湯消毒の場合は、開始後1～2日おきに更新する）</li> </ul>	
催芽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水温 <b>30℃</b>で1～2日間の処理を目安とし、<b>80%以上の種粃がハトムネ状態</b>に達したら終了</li> <li>・30℃を超えると細菌性病害、30℃を下回るとばか苗病が発生しやすくなる</li> </ul>	<p>芽の伸ばし過ぎに注意</p>
播種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稚苗の播種量は乾粃で1箱当たり <b>130～140g</b>（催芽粃で 160～175g）</li> <li>・灌水量は1箱あたり1～1.2ℓ（箱下からしずくが垂れる程度）が目安</li> </ul>	

## 2 健苗育苗

	出芽期		緑化期	硬化期
	加温	無加温		
温度管理	30℃	昼 30℃ 夜 15℃以上	昼 20～25℃ 夜 15～18℃	昼 15～20℃ 夜 10℃以上
期間	2～3日	4～5日	2～4日	12～13日
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化への移行時は急激な温度変化を避ける →白化苗の防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバーラブまたはラブシート等とシルバーポリトウの2重被覆</li> <li>・ハウス内の温度が <u>30℃</u> を超えないように適宜換気</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラブシートやトーカーほなみ等の1重被覆</li> <li>・低温時は2重被覆で保温に努める</li> <li>・第1葉が完全展開したら被覆資材を取り除く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中はハウスを開放 →最高温度が <u>20℃</u> を超えないよう注意</li> <li>・低温や降霜が予想される場合は再度被覆 →最低温度が <u>8℃以下</u> にならないよう注意</li> <li>・田植え5～7日前から夜間もハウスを開放し、外気にならず（低温・降霜時は開放しない）</li> </ul>
終了目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>出芽長 0.5～1.0cm</u> が目安 →伸ばしすぎに注意！</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1葉鞘長 3.5 cm程度、第1葉が完全展開</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>【葉齢】 2.0～2.4葉</li> <li>【第1葉鞘長】 3.5～4cm</li> <li>【苗丈】 12～15cm</li> </ul> 	
水管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覆土が盛り上がっていたら灌水し、沈下させてから緑化へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土の表面が乾いていたなら1日1回、<u>午前中</u>に灌水</li> <li>・プール育苗では、緑化終了時から入水開始（最初は育苗箱の高さまで）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は1日1回、<u>午前中</u>に十分灌水</li> <li>・後半は1日1～2回 →温度低下を防ぐため、<u>夕方以降の灌水は避ける</u></li> <li>・プール育苗の水位は苗丈の半分程度</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苗床を均平化する（苗箱の傾きは生育がバラつく原因になる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度の急変（8℃以下、35℃以上）はムレ苗が発生しやすくなる</li> </ul>		

### 3 露地プール育苗のポイント

準備作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・置床は均平にし、傾斜が大きい場合は2～3つに区切り、それぞれの区切りで置床を水平にする</li> <li>・水が循環できるように、プールの端から10cm程度空けて箱を並べる</li> </ul>
被覆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被覆資材はシルバーラブ#80 やトーカンほなみ等とシルバーポリトウ#80 の二重被覆とする</li> <li>・降雨後は酸欠やヤケ苗にならないよう被覆の上やプール内にたまった水を排除する</li> <li>・除覆、湛水後は苗が伸長しやすいので水温の上昇に注意し、必要に応じ水の更新を行う</li> <li>・播種時期の遅い育苗など、被覆時に高温・多照が予想される場合はヤケ苗を生じやすいので、ヤケにくい被覆資材（トーカンほなみ、ハイホワイトシルバー等）を用いる</li> </ul>
水管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化が終了(第1葉が完全展開)したら被覆資材を取り、プール内の一番低い位置にある育苗箱の床土まで湛水する(緑化終了時に種子根が伸びてない場合は、湛水時期を遅らせる)</li> <li>・浅い所の水位が1cm以下になったら草丈の半分まで湛水する</li> <li>・霜注意報等、異常低温が予想される時は床土面以上に湛水(深水管理)する</li> </ul>

### 4 移植前追肥（べんとう肥）による老化苗防止

- ・苗の老化防止と田植え後の活着促進のため、田植え4～5日前に窒素成分で1箱当たり1～2gの移植前追肥を施用する（ただし、軟弱苗や徒長苗には使用しない）。

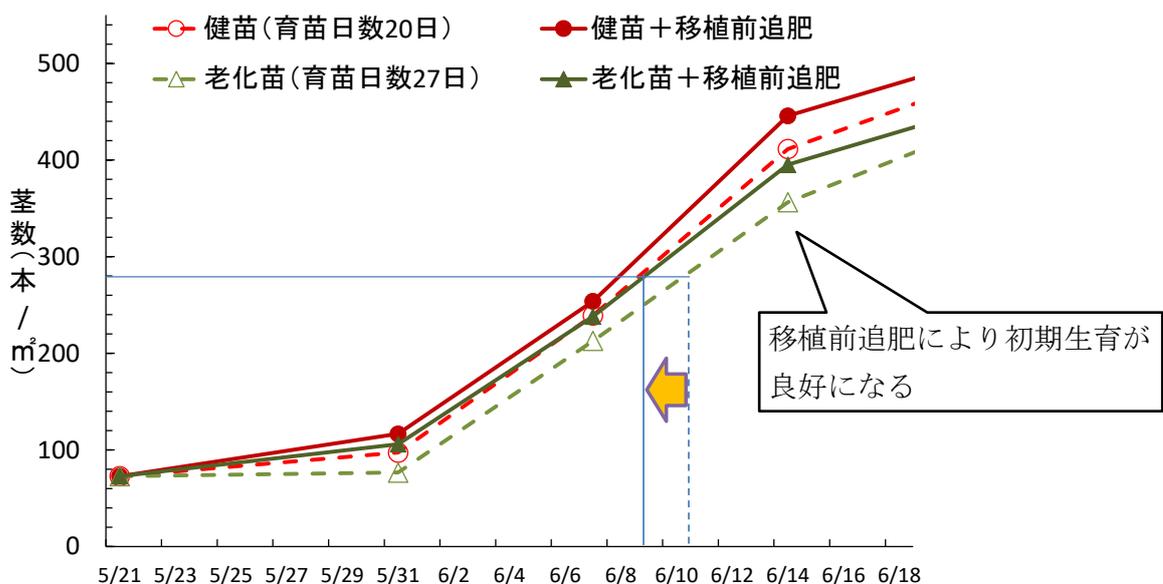


図 分けつ期の茎数の推移 (コシヒカリ、H25、26年、作研セ)